

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

# トマ喰い虫

〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1  
トマ喰い虫社  
☎045(563)5101 FAX045(563)9907

[郵便振替] 東京6-136148  
トマ喰い虫社



新ネットワークの名前が決まりました!

脱軍備ネットワーク

CATCH PEACE

## キャッチピース

「反トマ全国運動」発行の「トマ喰い虫」はこれにて終刊。ご愛読ありがとうございました。次号(8月発行予定)からは「キャッチピース」発行「??」を装いもあらたにおとどけます!

# 79

1992年6月20日  
定価 100円

発行◆トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体	1口	2000円
個人	1口	1000円

●参加会員 (月間会費)

団体	1口	1000円
個人	1口	500円

●通信会員

年間	1口	3000円
----	----	-------

(会費は本紙購読料を含みます)

PKO法成立—でも九条は生きています

# 自衛隊を監視しよう！

# 海外派兵を止めよう！

PKO法案が成立した夜、国会西門で小さな集まりがあった。三十二年前のこの日、この場所で警察の暴力によって生命を奪われた大学生、樺美智子さん。六〇年安保をたたかった「声なき声の会」の人々は毎年かかさずここを訪れ、小さな花束を捧げながら、変わらぬ志を確かめよう。その集いが、つい今しがた聞いたPKO法成立の知らせに、現場をさがりたいたい思いでいた市民たちが合流した。声高いアジテーションはない。もう体が弱っているのですが、この日だけはどうしても、と関西からかけつけたお年よりから、勉強も気になったけど毎日デモをしてみました、という高校生へとマイクは引き継がれていった。

三十二年前、冷戦下の米戦略に決定的に組

み込まれていったその日、日本は「国際貢献」の名のもとに軍隊を海外出動させる国になった。憲法九条は二度投げ捨てられた。

● ●

だが、九条はまだ死んではいない。自公民のまるで独裁政権ばりの議会運営、多数の暴力に、野党、なかでも社会党は牛歩からついに議員総辞職へと予想を越えた頑張りを見せた。ここまで事態を押し上げた力は、間違いなく世論であり運動だった。それも国内だけではなく、海を越えた人々の声であった。

日本に長く住む韓国人ジャーナリスト、イ・ドヒョン氏は新聞への寄稿を次のように結んでいる。「金だけじゃない。血を流しながら」

## 自衛隊監視情報、アイデア募集中

☎四五(五六三)五一〇一  
FAX (五六三)九九〇七



国会周辺には連日連夜人々の熱気が渦まいていた(議員面会所前)。

らの国際平和のための貢献。よろしいです。ただ、日本は韓国を植民地化したとき「東洋平和」を唱え、真珠湾を奇襲するときも「世界平和」を掲げました。日本人は歴史をもうちょっとじっくり考え、その澁(おり)をきれいにしたうえでPKOに参加したほうがより安全ではないでしょうか(六月十六日「神奈川新聞」)。

「牛歩をあげられない、のりした議員たち、「まるでおもちゃ屋の前でダダをこねる子供のように」としたり顔でコメントしたマスコミ人たちは、この言葉をどう聞くのだろうか。

世論と運動は、PKO法を止めることはできなかった。しかし、それが国民の合意の産物ではないことを国内外に明らかにすることは成功した。それは海外派兵への道のりをそう平坦ではないものになっている。

こう考えるとところから、私たちは「海外派兵」具体的には「カンボジア派兵」を止める次のたたかいをすぐに始めよう。

## PKOを選挙の争点に!

目前の参議院選挙で、各候補(予定者)のPKO法への立場を明確化し、それを争点化するためにアンケートや公開質問をやらう。

(14ページ左側へ)

# 見向きもされなかった

# 現実の海外派遣

リムパック演習

梅林宏道

PKO法案の国会審議が激しさを増していた六月の初めから中旬にかけて、約二三〇〇名の自衛隊員が海外派遣された。八・八艦隊と呼ばれる編成でリムパック環太平洋統合軍事演習に参加するためであった。演習はアメリカ海軍が主催し、カナダ、オーストラリア、日本、韓国の海軍が参加しているが、総勢二万人の中で日本はアメリカにつぐ第二の兵力の派遣国である。

自衛隊の海外派遣の是非で世論が沸騰している中を、大規模な海外派遣が現実に行われたにもかかわらず、そのことに世論の関心がほとんど集まらなかった。

たとえ演習であっても、もし実際に戦場や準戦場に自衛隊を派遣することを前提とした



演習であるならば、その前提について国論が二分しているときに演習に出かけることは、世間をあげ笑う行為であって、世論はそれに無関心ではいられないであろう。

そう考えると、リムパックへの無関心は、リムパックに対する無理解に原因があると考えられる。私たちの無力さを率直に認めざるを得ない。

一九八〇年に自衛隊が最初にリムパックに参加したときには、集団自衛権を否定している憲法に違反するとして国会でも議論になった。多国演習に参加すれば、日本の防衛に直接関係ない他国軍に加えられた攻撃に対して軍事行動をとることを想定することになる

(14ページ右側へ)

# 声明

1992年5月3日、4日、横浜で「太平洋民衆フォーラム海外基地のない世紀へ」が開催された。私たちは、カナダ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、フィジー、グアム、フィリピン、韓国、そして日本という太平洋の各地からこのフォーラムに集まった。

私たちは、冷戦後この地域の民衆運動が直面している諸問題を話し合った。急変する世界情勢の中で、太平洋において何が変り、何が変わらないかについて、さまざまな角度からの報告に接した。その中には、冷戦後の太平洋の平和と正義にとって楽観を許さない現状と、にもかかわらず芽生えている新しい時代への希望が混在していた。

私たちにとってもっとも大きな障害は、アメリカを頂点として再編されようとしている軍事力に基礎をおいた新しい世界秩序形成の動きである。この動きは、冷戦後をもう一つの軍拡の時代へと導く危険性をはらんでいる。私たちにとってもっとも大きな希望は、冷戦が終結したこの機会をこそ、新しい平和秩序の形成に向かった歴史の節目にしなければならぬと感ずる根強い各国の世論が存在していることである。

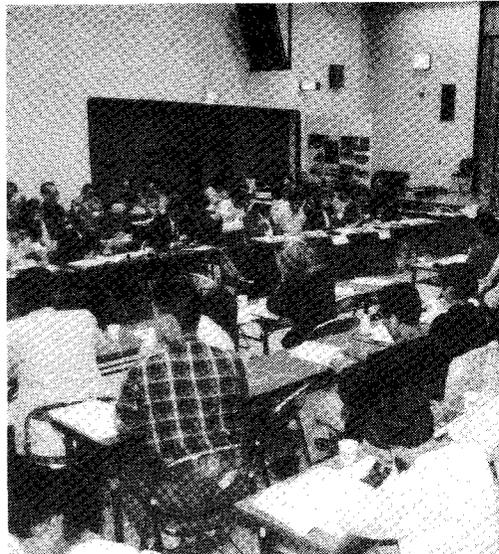
この転換期に、冷戦時代に膨れ上がった太平洋の軍事基地網をなくすことの重要性を私たちは確認した。これらの海外基地網が、かつて宣伝された存在意義が消滅したにもかかわらず、「新世界秩序」の軍事支配の基盤構造として使われようとしているからである。のみならず、平時から外国に軍隊と施設を配置する考え方こそ、大国のみによる世界秩序の形成と小国支配を前提とした旧時代の思考であり、今こそ根底から否定されなければならないと考えるからである。

私たちは、「海外基地のない世紀」に向かって国境を越えた太平洋地域の民衆運動の協力の必要性を確認しあった。そして、この協力は次のような原理に基づくべきであると私たちは一致した。

- 人権、自決と独立、脱植民地のための運動を支援し、核大国が及ぼしている圧力から非核国家を防衛すること。
  - 安全保障という概念を軍事費を投入する考え方から人々や環境の必要性に基礎をおいた相互協力という考え方に転換すること。
  - 私たちはまた次のような課題にともにとり組むことを合意した。
  - 核実験の中止、日本の核武装とプルトニウム利用計画を含め、核拡散の防止のために行動すること。
  - 現在日本の国会で審議中のPKO法案を含め、日本の海外派兵の計画に反対すること。
  - 基地撤去を促進し、その経済上、環境上の影響を軽減するため、市民運動は自分たちで計画を立案するとともに政府に経済転換と環境回復の計画と実行を要求すること。
  - 非核自治体を支援し、11月に横浜で開催される非核自治体国際会議に向けて各地から提案を持ち寄ること。
  - 地域の人々や資源を損なうODAを中止すること。
- これらの目的を実現するため、私たちは、次の事を約束し合った。
- 今日、いまから参加者それぞれのイニシャチブで私たちが、緊密な連絡をとりあうこと。
  - 今後、連携をより有効にするためのメカニズムを作り出すこと。このフォーラムの直後に始まる太平洋軍備撤廃運動(P.C.D.S)の横須賀会議においてもこの課題が検討されるよう要望する。

フォーラムを閉じるに当たって、以上のことを声明する。

1992年5月4日 太平洋民衆フォーラム、横浜



太平洋民衆フォーラム●5/3~4ヨコハマ  
海外基地のない世紀へ

# 基調として登場した 日本への警戒心

海外ゲストを含む述べ300人が参加、冷戦後の太平洋めぐり熱っぽい討論。

五月三日から四日、横浜で「太平洋民衆フォーラム—海外基地のない世紀へ」が開催された。カナダ、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、フィジー、グアム、フィリピン、沖縄、韓国、日本の各国から延べ三〇〇人が参加した熱のこもったフォーラムとなった。その中には韓国からの六人を含む十六人の海外ゲストがいた。

冷戦後の太平洋の米軍を予測して、基調講演者のクリス・ウィング(米)は「政権と軍はいとも変わらぬ対応をしている。しかし、政策変更を余儀なくされる要素は、確実に存在している」と分析し、海外基地のない世紀へと向かう大衆運動の意義を強調した。もう一人の基調講演者ローランド・シムブラン(比)は、米軍基地を追放したフィリピン民衆闘争の歴史的文脈を強調した。保守的な上院が米軍基地の存続を拒否した「意外性」の背景にある「民族主義者たちの血の抵抗の歴史が、いま歴史を変えつつある」と。

韓国からの参加者たちが、日本のプルトニウム政策と軍事的野心をだぶらせて厳しい警戒心を繰り返し述べたのに象徴されるように、冷戦後の太平洋の安全保障問題を考える上で、日本に対する警戒心が一つの基調として登場していることが印象付けられた。

採択された声明を別掲する。(梅林宏道)

## 感激の再会

あんなこと・こんなこと

毎夜十一時を過ぎると、ドリンクングセッションと称する特別セッションが始まる。呼びかけ人は定かではない。お互いに譲り合って名をあかささないが、無類の酒好きの輩の面々、平和センター・船越教会の木村牧師、韓国の印明鎮(イン・ミョンジン)牧師、フィリピンのローランド・シムブラン教授？

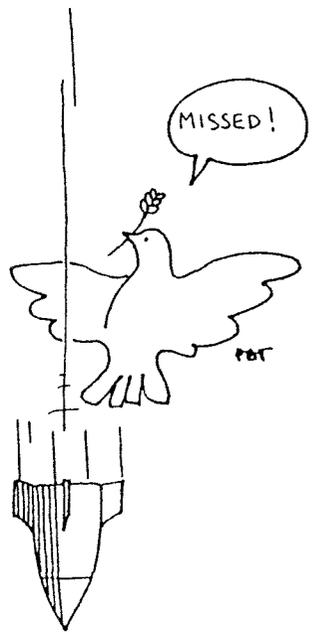
その一夜の感動秘話！

汎民族連合日本支部の事務局長としてフォーラムであいさつした康宗憲(カンジョシホ)氏は、フォーラムの会場で印明鎮牧師と感激の再会、二人は涙を流して抱き合った。康氏はかつて在日韓国人政治犯として死刑宣告を受けてソウルの獄中であつた。

一方、民主化闘争の闘士であつた印牧師も何度も投獄されたが、その都度獄中で康氏に会つた。死刑判決から三年がたつた死刑囚はいつ処刑されるかわからず、康氏も刑の執行日には自分の番か…と血の気の引いた顔になつた。印牧師は牧師として懸命になつて彼を励ましたという。横浜での再会はその二人が初めて獄外であつた記念すべき出来事だったのである。(う)

# 次期アジェンダへ PCDSヨコスカ会議

梅林宏道



横浜での「太平洋民衆フォーラム」を受けて五月五日〜八日、横須賀平和センターで太平洋軍備撤廃運動(PCDS)の国際コーディネーティング会議が開催された。一九九〇年二月にソウルで開催されて以来の久しぶりの開催であった。世界情勢の展開をどう評価し、今後のPCDSの組織体制、活動プログラムをどう設定するか、が主たる議題であった。

ファシリテーターと呼ばれる各国(七ヶ国)のPCDSの窓口となる人格あるいはその代理がすべて参加した。新しく参加する沖縄の代表と参加を検討するグアムの代表も加わった。

た。それに、カナダに置かれている資料室で専従を勤めるパティ・ウィリス、カリフォルニア州で財政事務所をあずかるネルソン・フオスター、それに横浜で国際事務所をあずかる半専従の梅林を加えて国際コーディネーティング会議の全構成員となる。

「フィリピン、韓国、沖縄の同盟でヤマトを包囲しよう」と半ば本気で三名がヤマトの私を挑発する。「韓国の脅威をどうするのだ。リムバックに韓国が参加すれば韓国は太平洋諸国の脅威なのだ」。オーストラリアの仲間が議論を複雑化する。そこには、オーストラリアの軍事政策がバブアニューギニアをはじめとする太平洋諸国への権益擁護に走ろうと

しているときに、太平洋を米・日を中心に語ることへの反発が含まれている。いつものことながら、PCDSの議論は、活動家の視点を確固たるものになら、なおかつ相対化する魅力的な場所である。今回の会議では先行した「太平洋民衆フォーラム」海外基地のない世紀への議論が、PCDSのブレイン・ストーミングの場となって、冷戦後・湾岸後の問題意識を共有するのに大きな役割を果たした。紙面の制約があるので、会議でスケッチされた今後の活動プログラムを紹介することによって討論の紹介にかえる。

①米軍基地撤去の促進・海外基地における性的虐待調査と報告/反基地運動に熱心な労働組合の交流/基地撤去を促進する講師のスピーキング・ツアー/基地の諸問題・撤去の諸問題資料バンクなど

②日本自衛隊監視・英文定期刊行物の発行/アジア太平洋への自衛隊監視網の拡大(関心の喚起)

③太平洋における米軍の再編・変化の追跡と出版/トライデントなど新兵器の監視と出版/太平洋全体からの湾岸戦争の総括/新しい太平洋基地地図の作成/軍艦からの核兵器の撤去の追跡など。

## 心楽しかった 3日間

皆川みずゑ



筆者はPCDSの新しい日本ファシリテーター。クリス・ウイニング(左)と。

PCDSの会議は三日三晩続いた。私は仕事の関係もあり、全部には出席できなかった。午前中仕事をこなし、京急にとび乗って横須賀の平和センターにかけつける。夜は夜で、九時十時まで話し込んで家に帰る。英語がほとんど理解できなかった悔いもあるが、この日々は本当に心楽しく、一秒一秒が惜しい気

④基地・核物質輸送の環境問題・NEPPAの海外適用に関するブリーフィング・ペーパー/日本のブルトニウム輸送に関する英文出版物/新しい法廷闘争の組織化/レイ報告に関する各国市民の反応まとめなど。  
⑤太平洋のオルタナティブ安全保障・国際シンボ/議員の組織化/現在出ている諸提案を整理したリーフレット発行など。

⑥基地を持つ地域の平和転換・データの蓄積/フィリピンの専門家のスピーキング・ツアーの組織化/フィリピンと米国の事例を整理したブリーフィング・ペーパー発行など。  
⑦太平洋問題・ムルロア核実験/スプラットリー島の領土紛争/太平洋・ASEAN諸国の軍拡・武器輸入の監視など。

かしたものだ。

私がこの会議に出て、何よりも感じたのは、このPCDSの会議に出席した人たちの心のすえ様というか腰のすえ様という点である。私の英語力では確かなことはわからないのだが、悲観的な言辭で話がとぎれるとか、政治的かけ引きといった点に話がいくというところはなかった。ストレートな反核、反軍事の気持ちが支配していて、何ともさわやかに話がすすむ。

ということ、日本のなんともウヤマヤ、モヤモヤとした状況がくつきりうかびあがるというわけだ。やはり、日本は「軍事大国」であり、海外、特にアジアの国々に軍事的脅威を与えているのだ。日本の中にふんぞりかえっている米軍がいる。なのになて前だけ「平和主義」。なんともやりきれない気が増した。

あんなこと・こんなこと

ありがとうございます  
おかげさまで...

フォーラムの成功も不成功も全て財政次第? 市民グループがどこまで自力で出来るのか、ドキドキのスタートでしたが、集まる、集まる!北海道から、沖縄から、新潟から、徳島から... 財政担当真利に尽きる感激の日々でした。ノートにキラキラ協力金、カンパの記録。同時通訳の方々からも。(山)

ニッキーさんが  
言っていました

鈴木かずえ

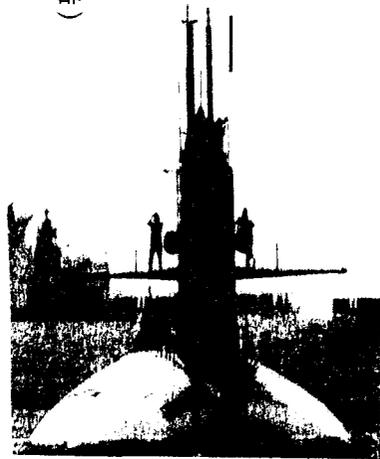
ニュージールランドからやってきたニッキー・ハーガーさんはヨコスカ平和船団誕生にぜひぶん寄与した人だそう。その彼が言っていた。「ノウハウを教えた者として恥ずかしいよ。彼らはボクらの何倍も働いているんだから」。私は、早くヨコスカもたくさんさんのひとびとがちょびつとずつがなれば効果がでるようになればいいなあ、と思いつつ、そこまでにしたニュージールランドの平和船団と、本当に本当によく働いているヨコスカの平和船団に頭がさがるのでした。

なだしお事件から四年

# 自衛隊はなぜ真実をかくすのか

近藤万治さんインタビュー  
第一富士丸元船長

聞き手●山中悦子(編集部)



「行方不明者捜索中に、なだしお艦内では艦内会議が行われ、航海日誌、海図などの改ざんが行われていた。」という報道には誰もが自分の目を、耳を疑った。しかし、この事実も海難審判の判決では全くかえりみられなかった。

多くの人々は、その後この事故の裁判の行方や、近藤船長がどうしているのかに特別な注意を払うこともなくなっていた。

長い間支援する組織もほとんどなく孤独な裁判闘争を続けてきた近藤船長への支援の輪が今、労働者、市民の間に広がつつある。

近藤さん自身も変わった。出来るだけ大勢の人に会って真実を伝えたいと考えるようになり、発言し始めたのだ。

去る六月十二日、編集部では東京タワーにほど近い船舶部員協会の事務所を訪ね、近藤

さんにお話をうかがった。

●  
□近藤さんは事故後長い間、世間でのご発言を控えていらつしやいましたが、今なぜ積極的にご発言されるようになったのですか?

近藤●私は三十名もの貴い命を失った船の船長でした。事故の責任を自覚し、犠牲者や、ご遺族の方々に對して申し訳ないと思う気持ちから発言は控えてきました。自分の有利、不利に関係なく、正直に事実だけを述べていれば事故の真相は解明され、公正に裁かれるであろうと信じ、海難審判、刑事裁判の法廷に立つてきました。けれど「なだしお」の山下艦長、海上自衛隊が事故の原因について一切非を認めないばかりか、衝突後の救助に関しても何の落ち度もなかったといまだに言っ

ていることを聴くに及んで許せない気持ちでいっぱいになりました。

●  
□本当に考えられないことですが、「なだしお」側は、航海日誌、海図の改ざんまでしたのです。それも事故直後人々が波間を漂いながら必死で助けを求めていた、その時にです。しかし海難審判第二審ではこのことは不問に付されたのです。

●  
□時間の経過は事件を確実に風化させていくものです。事故に対する人々の関心が薄れるにつれ、証言者の証言も変わってきました。力のある側に有利に真実が歪められていくのです。

●  
□遅くなったとは思いますが、事故を風化させないために、裁判が公正に行われるために、自衛隊の本質を人々に知ってもらうために私は、私が知る真実を話していこうと決意しました。船員の皆さんから支援の声が届くようにもなりましたし、国労闘争団のお母さんた

自分に有利か不利か、なんて関係ない。

三十名の生命が失われた大事故の真実を闇に葬らせないために、私は話しつづけたい。

●  
□この頑張りや横須賀でデモを続ける人のすゝさからも声を出すことの大事さを学びました。

●  
□事故後、近藤さんはどのような毎日をお過ごしでしたか?

近藤●都内の建材店で働き生計を立てながら裁判を続けてきました。事故後二ヶ月ちょっとで「海難審判第一審」が始まり、一年後に判決。続いて「海難審判第二審」が約一年間。今は90年末から一年半以上続いている「刑事裁判」の最中で、私は刑事被告人です。また、「海難審判第二審」を不服として私が高等海難審判庁長官を訴えた「行政裁判」も90年末からまだ続いています。

●  
□この間、私はわずかの支援者をのぞいてほとんど一人で闘ってきました。お金と時間の都合でご遺族のお宅を訪問することもなかなか出来ませんでした。

●  
□山下さんの方は、自衛隊のイメージ回復のために組織をあげてこまめにご遺族を訪問し

ていますので私は比較されて「近藤には誠意がない」といわれてしまいました。

●  
□近藤さんと海との出会いは?

近藤●長野で生まれたのですが、小さい時に愛知へ転居して「海」と出会いました。国立鳥羽商船高等専門学校を卒業。オイルショックの不況時で大きな海運会社の採用がほとんどない時でした。でも船に乗りたくて結局正規の社員になれないままでしたが十年以上ずっと船に乗ってきました。外国が多かったのですが、そろそろお嫁さんでも思っ

●  
□近藤さんは海技免状取得者。海上自衛隊の艦長には海技免状、つまり船長としての免状が義務づけられていない。

●  
□事故後、様々なことをご体験されたことと思いますが...

近藤●納得できないことだらけでした。とにかく私は、裁判は常に公正なものだと信じていましたが、「海難審判第二審の逆転判決」を経験して本当に失望しました。航海日誌や海図改ざんの行為さえ自衛隊とか国がすると起訴の対象にならなかったのです。相手方の力の大きさや、権力の恐ろしさを実感しました。また、いろいろな人の対応の変化にも驚き呆れました。中立だった人の証言がほとんど自衛隊寄りの発言に変わっていったのです。

多くの識者と呼ばれる人々にも失望しました。田尻宗昭さんがこの事件を個人的な過失の面からだけ見ないで、自衛艦の浦賀水道集団横切りにこそ目を向けるべきとの見解を示し、九対一で「なだしお」が悪いと述べた時には、「なだしお」の非を主張していた先生方も、田尻さんが亡くなられると「分らない」とか「ノーコメント」に変わったので、マスコミもだんだん報道しなくなり、人々の注意を失わせていきました。

この四年間の大部分は憤りと失望の日々でした。支援者がだれもいない一人ぼっちの法廷もありました。でも今は大勢の支援者の皆さんと共に闘う日々です。海員関係者、陸上の労組や市民運動の人達が「支援会」を結成してくれました。頑張ろうと思います。

分は発言などしてはいけな思っています。近藤さんは何度もこう繰り返した。「なだしお事件」の真相を知り、身を以て自衛隊の本性を知った近藤さんの証言がいかに貴重なものかを知る。助けを求める市民を目の前に、組織ぐるみで事実隠しに走ったその集団が、一人道徳的国際貢献の旗を掲げて海外出動しようとしている。この偽善。PKO法を許してはならない。とも近藤さんは繰り返して語った。六月二二日論告求刑、七月二七日結審、そして秋に予想される判決。法廷での闘いは大詰を迎える。私たちが運まきながら、支援の輪に加わりたいと思う。

「七月二三日、事件から四年目のその日、ヨコスカ平和船団は近藤さんとともに現場海上で慰霊祭を行います」

### なだしお事件を忘れない 公正判決を求める7・23集会

日時 七月二十三日(休)十八時 (京浜東北線関内駅下車)  
会場 横浜開港記念会館ホール 主催 集会実行委員会

連絡先 03(3452)5085

### 刑事裁判

論告・求刑 六月二十二日  
結審 七月二十七日

いずれも午前十時、横浜  
地方裁判所。(関内駅下車)

### 五月四〜五日ヨコハマ 新ネット発足会議の報告①

## 感じたみんなの熱意、 やはり行ってよかった

五月四、五日横浜のオルタナティブ生活館で、「反トマホーク全国運動全国運営委員会」のよびかけで新ネットワークの発足会議が開かれた。私はピースリンク広島・呉・岩国メンバーではあるが、平和運動の全国的な動きなどわからないことだらけなので、全国の市民運動の人々から勉強させてもらおうという甘い考えと、広島からも誰か行って下さいという、呉の湯浅さんからの誘いで、参加した。(三日から四日の昼までは神奈川県政総合センターで太平洋民衆フォーラムが行われたが、これには私は参加できなかった)。

五月四、五日横浜のオルタナティブ生活館で、「反トマホーク全国運動全国運営委員会」のよびかけで新ネットワークの発足会議が開かれた。私はピースリンク広島・呉・岩国メンバーではあるが、平和運動の全国的な動きなどわからないことだらけなので、全国の市民運動の人々から勉強させてもらおうという甘い考えと、広島からも誰か行って下さいという、呉の湯浅さんからの誘いで、参加した。(三日から四日の昼までは神奈川県政総合センターで太平洋民衆フォーラムが行われたが、これには私は参加できなかった)。

要綱、京都の青木さんから当面の活動についての提案と討論。「めざすもの」についても突っ込んだ討論を行い合意内容がまとめられた。ネットワークの名称はさまざま案が出たが時間切れで決められなかったので、公募して決定は運営委員会に一任ということになった。

私は、二日間とも終始人の話しを聞くこととメモをとることに必死で何も発言しなかったが、他の人たちの討論を聞くことで、自分の知らない、しかし本当は身近なはずの日本の基地の状況や全国の人たちの運動に対する熱意を感じることができ、やはり行ってよかったです。この経験はPKO法のなりゆきや自分の力不足などで運動から気持ち離れそうになっても、やっぱり頑張ろうという気持ちに引きもどしてくれる力の一つになっているのだ。



この会議では十一月月上旬に広島が呉で全国会議を開けないだろうか、ということになり、持ち帰って相談した結果、正式に引き受けることになりました。PKO法のことでも忙しく(きつと全国的にそうだと思う)、まだ何も決まっています。日程は運営委員の方から連絡が入る予定です。全国の皆さんのご協力を受けたと思います。わからないことだらけですが、よろしく願います。

(杉山ゆう子/ピースリンク広島  
呉・岩国)

名称も決まり、「めざすもの」「要綱」などをまとめたリーフレットを今制作中です。何とかこのニュースと一緒にお送りしたい、と思っています。(編集部)

## カンパを!

※近藤さんは、5月から仕事を止めて裁判闘争に専念しています。横浜での発足会議で近藤さんへのカンパを新ネットの当面の課題の一つに加え、生活を闘いをすこしでも支えよう、と決めました。

※送金は下記までお願いします。

郵便振替 東京6-136148

口座名「トマ喰い虫社」

(「近藤さんカンパ」と明記して下さい)

がんばれ、近藤さん!

「なだしお事件」に大きい責任  
横切り航法「適用」  
船長は左転で過失  
元船長は禁固2年6月  
元船長は禁固1年6月

### 五月四日五目ヨコハマ 新ネット発足会議の報告①

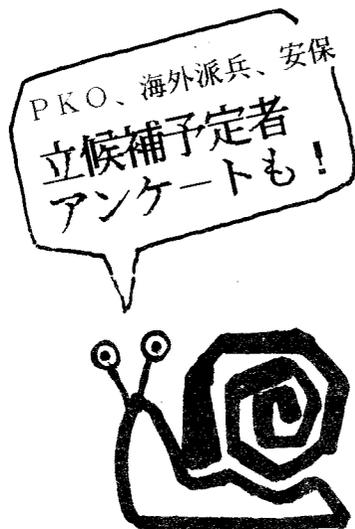
# ベローウツド、オブライエン 母港化反対など 当面の活動方針決める

PKO法により自衛隊は海外へ出ようとしている。在日米軍は冷戦が終わった今も強化されている。この夏、東西の軍港で攻撃的な米軍艦の配備が計画されている。これらを踏まえ、最後に当面の行動計画が合意された。

- (1) 強襲揚陸艦ベローウツドの佐世保母港化に反対し、佐世保平和船団の結成をめざす。
- (2) トマホーク艦オプライエンの横須賀母港化反対運動を全国的に起こす。
- (3) PKO法案、自衛隊法改悪による自衛隊機派遣の反対運動を最大限推進する。当面「全国市民投票」を各地でとりくむ。
- (4) 参院選挙立候補予定者に対し、PKO、海外派兵、安保などについてアンケート調査を全国で行う。
- (5) 各基地の平和転換プランを作ろう。横須賀、大久保基地などの試みを全国で進めよう。

- (6) 事実の裏付けをもった活動の基盤をつくるために平和資料協同組合を九三年発足をめざして準備する。
- (7) 「ただしお事件」の近藤万治元船長への緊急カンパなど支援活動を進める。
- (8) リーフレットなどを作り、様々な個人、団体にネットワークへの参加をよびかける。

(湯浅一郎/ピースリンク広島 呉・岩国)



バから日本へ向けて始まろうとしています。二〇一〇年までに二〇〇トンものプルトニウムを備蓄しようとしている日本に海外からは警戒の目が向けられています。PKO法案が成立すれば、自衛隊は堂々とプルトニウムの護衛に出ていくでしょう。「核物質―自衛隊―情報秘密化」これらが一直線に並んで意味するものは何でしょうか。ぜひとも、プルトニウム問題に緊急にとりくみましょう。

- (大庭 里美/広島市/プルトニウム・アクション・ヒロシマ)
- 今年もピースサイクル92が行動を展開します。「トマ喰い虫社」の斗いに続け！海の斗いを肝に銘じ、がんばりたいものです。

秋山 一郎/千葉市/公務員  
新ネットワークの目的の中に米軍基地を撤去しようというがありますが、なぜ日米安保条約反対を加えないのですか。米軍基地と日米安保条約は密接不可分のものです。新ネットワークの発足を支持し、長く闘いましょう。

(斎藤 信明/東京都)  
新しい名前？(で遊ばせて頂いたり)  
「ピース・キャット」(我輩は猫さんがいたで)ねている様でも、しっかりアンテナをはてるネコ。暗闇でもよく見える目。草の根市民運動もいざという時パッと立ち上がる。ネ

ットをもじった平和を齎る「基地ねずみ」を退治するキャット。

- 「平和ぐも」「戦争っ気」をキャッチするネットを張ってます。どこににいるか目立たなくとも素早い狩人です。何処よりか湧き出て流れゆく水蒸気の塊の「くも」も草の根の動きに似てませんか。消えたと思っても又湧き、時に及び雷をも呼ぶ力を発揮するでしょう。
- (斎藤美智子/国分寺市/未来を考える会)
- (新ネットワーク)大賛成です。わたしも日本の平和運動を少しでも強めることに、協力させて頂きたいと思っています。

- (K・T/西宮市)
- 反戦・反核・反基・反派兵…とすべてに賛成ですが、すべての運動体に参加するわけにもいかず…まともが？ (T・S/新宿区)
- 御活躍御苦労様です。あちこちから参加及びカンパ要請が来ますが、年金生活で貧しく、御期待に添えませんが、ごめんなさい。

(F・Y/五條市)  
ソ連・東欧の状況変化で、今は、核軍縮の方向で動いているようですが、この先のことはわかりません。結局、全ての核の廃棄、通常兵器の削減、軍備縮小のプログラムを世界規模で進める必要がある。まずは、防衛費、自衛隊の削減から。(S・T/名古屋市)  
PKO何とか廃案にしたいです。平和貢献

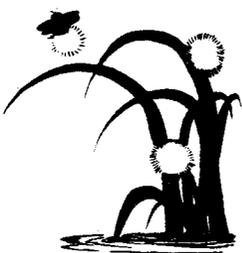
### 読者から



七八号で特集された「日本列島でなにが起こっているのか」の皆さんからの危惧が一步現実化した。六月九日未明、PKO法案参院通過。日本の政治の大転換のイボック。社共の議員方ご苦労さま。これで気落ちするのはなく、ここから闘いのスタート。駅前宣伝、辻説法、反復は力なり。今国会での無念さ、参院選で晴らそう。公・民何をかいわんや。(芳野よし/柏市/環境団体役員)  
米軍の動きも心配だけれども、日本国家及び政党のPKO自衛隊参加の動きの方が当面ずっと心配だ。自衛隊員は市民意識も稀薄だし、とても市民の立場を考えて作られた軍隊とは思えないからです。

(本田 昂/浦安市・公務員)  
危険なプルトニウム輸送がこの秋ヨーロッパ

は民間人の手でやります。お金の援助はしなくてはいけません。 (T/M/伊丹市)  
非暴力の非戦・人権の運動に賛同します。生命や人間の尊厳や平等が侵されぬ世界を願いますね。(S・D/山県郡)  
湾岸戦争の実態(真実)が後から後から報道されます。めっちゃくちゃに壊されたイラクの都市、とても特定の建物だけを目標に爆撃したのではないことがわかる。技術的に可能な事なら計算したような戦い方ができるのかと思っていたが、やはり戦争は戦争。気持ちの上でそんなことは不可能ということが実証されたことになろう。国連軍のやったことは正義の戦いでもなんでもなかった。だからPKO法案にも反対だし、国連・コクレンと言っって力を合わせるのには武力を合わせることになるので、この風潮を警戒しなければならぬ。だからそのためにはこの新ネットワークの趣旨に賛同します。(U・T/杉並区)



# ベラウ非核憲法あやうし!

## 7月13日に憲法改正＝非核条項骨抜き住民投票

緊急カンパの  
お願い

### 原子力艦 入港情報

(45)

1992年4月16日  
～6月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級  
S級=原子力潜水艦スタージョン級  
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

3月16日～4月15日/佐世保(前回未確認分) 沖繩はなし	
◆3月19日	午後4時25分原潜ヘレナ(L級)佐世保に入港。
◇3月22日	午前9時54分原潜ヘレナ(L級)佐世保を出港。
◆3月24日	午前9時49分原潜ドラム(S級)佐世保に入港。9時59分出港。
◆3月27日	午前10時05分原潜ドラム(S級)佐世保に入港。10時15分出港。
4月16日～6月15日	
◆4月16日	午後2時07分原潜インデアナポリス(L級)横須賀に入港。
◇4月22日	午前10時01分原潜インデアナポリス(L級)横須賀を出港。
◆5月11日	午後1時59分原潜ヘレナ(L級)横須賀に入港。
◇5月18日	午前9時56分原潜ヘレナ(L級)横須賀を出港。
◆5月25日	午前7時原潜ドラム(S級)ホワイトビーチに入港。7時30分出港。
◆5月29日	午後1時55分原潜シカゴ(L級)横須賀に入港。
◇6月2日	午前9時58分原潜シカゴ(L級)横須賀を出港。
◆6月6日	午前8時30分原潜トートグ(P級)ホワイトビーチに入港。9時出港。
◆6月11日	午前9時35分原潜ヘレナ(L級)佐世保に入港。10時05分出港。
◆6月13日	午前10時10分原潜シカゴ(L級)佐世保に入港。10時30分出港。
◆6月15日	午前9時43分原潜インデアナポリス(L級)横須賀に入港。10時11分出港。(沖泊まり)

●1992年1月1日から6月15日の各地への原子力艦入港回数は  
横須賀 9回(うち原潜9回)  
佐世保 5回  
ホワイトビーチ 4回(うち原潜4回)

非核憲法を持つ島として知られるベラウ(パラオ)で、非核条項の骨抜きをねらう憲法改正投票が急ぎよ行われようとしています。エピソン大統領が大統領令で命じたもので、投票日は7月13日とされています。一時は護憲派住民が殺されるなど、悲惨な出来事へのりこえ、守り抜かれてきた非核憲法。そしてやっと平静をとりもどしたベラウに再び緊張と対立がうみだされようとしています。もし改憲投票が実施されれば、よい意味でも悪い意味でも憲法をめぐる最後の投票になるかもしれず、ベラウ民衆が起草してから13年にわたり守りぬいてきた非核憲法は、いま重大な局面にたたかれています。

ベラウの憲法には住民投票で75%以上の承認がえられないかぎり一切の核を拒否することがもりこまれています。このため、米軍基地化や核艦船の運用などをとり決めた自由連合協定は、これまで7度にわたり住民投票にかけられましたがことごとく否決されました。

憲法を守ろうとする住民たちは投票中止を求めて提訴することや、改憲反対のキャンペーンを考えているとのことで、様々なかたちでの支援を訴えています。日本にいる私たちがやれることは多くはありませんが、緊急のカンパをつのり、ベラウ民衆にとどけたいと思います。どうか協力をお願いします。

(「よびかけ」チラシより)

★カンパは下記の郵便振替口座に直接送金してください。トマ喰い虫社でも受け付けます。いずれの場合も「ベラウ緊急カンパ」と明記してください。

東京 5-159424 (口座名: 反核パシフィック基金)

★集約は第1次6月末、第2次は7月中旬とします。

[連絡先] 反核パシフィックセンター東京

〒113 文京区向丘1-3-7 自主講座内

☎03(3815)1648 FAX 03(3815)9325

(3ページ下段から)  
からである。したがってその後のリムパックの監視と内容の検証を続けることが、自衛隊に対する憲法枠の議論を深め、悪くなることへの歯止めをかけるために欠くことの出来ない作業であった。  
残念なことに、政党もマスコミも市民もこの作業を持続できなかった。  
十数年が経つ中で、①自衛隊は、水、弾薬、食料、油などを洋上で補給し、遠隔地洋上で長期戦を可能にする戦闘支援艦を派遣する  
結果を市民の選挙広報にしよう。

### 自衛隊を監視しよう!

PKO派遣部隊は全国の部隊持ち回り当番制で国連からの要請にいつでも応えることができるようにしておく、というのが防衛庁の方針。つまり国内のどの部隊も、たまたま「運悪く」当番の時に国連から要請があれば出動しなければならなくなる。まず、地域にどんな部隊がいるのかを把握することから始めよう。カンボジアPKOの場合は陸は工兵隊、空の輸送機、海の輸送艦だから調べればターゲットは大部しぼられていくはずだ。付録の「カンボジアで自衛隊は何をするのか」

### 自衛隊と家族に語りかけよう!

ターゲットを定めたら、行動だ。デモや周迎住民への宣伝も効果的だが、もっとも力をいれたいのは実際に戦地に出かける自衛隊員とその家族への働きかけだ。PKO法の成立過程に疑問を抱いている自衛官や家族は多いはずだ。自分たちの命が政治屋たちにもてあそばされることに怒っている自衛官も少なくないはずだ。そんな彼ら彼女らに、海外派兵を拒否しよう!と呼びかけよう。ピラよし、スビーチよし、歌もよし。あくまでも一友情あ

### ネットワークしよう!

たたかいは現場は地域だ。情報やノウハウや経験を横から横へと伝えるネットワークを地下水脈のようにはりめぐらそう。  
● PKO法成立とほぼ同時に、新ネットワークー脱軍備ネットワーク・キャッチピース」は誕生した。  
● 不安の時代。でも希望を追い風に船出しよう。みんな、がんばろう!  
(田巻一彦)

の指揮下に入ったとオーストラリアの新聞が報じた。湾岸戦争でオーストラリア軍の軍艦が多国籍軍の一部となって事実上アメリカ軍の指揮下に入ったことを想起しよう。  
ここには「政治よりも軍事が先行する」という紛れもない事実がある。軍の動向を持続して監視する市民の目とマスコミや国会の持つ必要性を改めて強く訴えたい。  
◆ ◆ ◆  
る説得」、それが基本。付録の呉と京都のチラシ、参考にしてほしい。  
◆ ◆ ◆

# 編集室から

●生まれて初めて裁判所というところへ。六月二十二日横浜地裁。「なだしお事件」の論告求刑を傍聴するためです。TVドラマのセットのような法廷。裁判官、検事、弁護士、そして被告の二人。ドラマのように「真実」が勝ってほしい。  
(や)

●難儀しました、新ネットワークの名称。うーん今イチ…などと言っているうちにPKO。それどころではなくなりました。気がついたらニュースの締切りは目の前。あせりにあせって電話会議の雨あられ。しかし、九回ウラ土壇場清聖逆転ホームランの運営委員Hさん。あなたはエライ！一脱軍備ネットワーク・キャッチピース。いい名前だ。ね、ね。次号からは誌名も装丁も内容も一新しておとどけする予定。そのため少し間があくことをあらかじめ許していただいて、ついでに今号の発送の遅れも許していただいて。「トマ喰い虫」に名残をおしみつつ、西口五番街方面へと去っていくのであった。  
(た)

## 会計報告

(92. 4. 22 ~ 92. 5. 31)

### [収入]

○前月からの繰越	167,008
経常繰越	267,008
借入金繰越	△100,000
○今月の収入	156,396
会費収入	64,000
内	
維持団体	0
維持個人	26,000
参加団体	0
参加個人	9,000
通信会員	29,000
カンパ収入	82,976
資料収入	9,420

### [支出]

●今月の支出	272,963
家賃(5月分)	40,000
水道光熱費	9,157
電話・FAX費	26,252
郵送費	41,305
文具・備品	23,477
印刷費	31,652
行動費※	0
郵便振替等手数料	1,120
借入金返済	100,000

新ネットワークへの引きつき 50,441

\*行動収入、経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の収支のみが経常会計に計上されます。

ご応募くださったみなさん、ありがとう。

## 今後の米軍の変化を見定める必携書

アメリカ合衆国会計検査院(GAO)報告書

(NSLAD-91-192)

# 太平洋における米軍

1991年8月

1冊	¥1000	送料260
2~4冊	¥1000	310
5~7冊	¥800	360
8~9冊	¥800	410
10冊以上	¥800	送料込み

翻訳・発行 平和資料協同組合(準)

045(563)4814

### 月刊トマ喰い虫第七十九号

一九九一年六月二〇日発行(通巻八十号)

\*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動  
〒二三三 横浜市港北区箕輪町三三三  
トマ喰い虫社

☎〇四五(五六三)五一〇一  
FAX〇四五(五六三)九九〇七

\*編集 「郵便振替」東京六二一三六一四八

\*定価 一〇〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

# 自衛隊員は海外派遣を 拒否しよう！

宇治大久保の自衛隊員の皆さん！自衛隊を部隊ごと海外に派遣する「PKO法案」が、現在衆議院で強行採決されようとしています。皆さんもよく御存じのとおり、この2週間の国会は異常づくめでした。これほど重要な法案が、国会での裏取引と、選挙目当ての駆け引き、そして最終的に数の論理によって、法律として成立させられようとしています。

大久保基地の隊員の皆さん。この危険な法律を成立させようとする、自民・公明・民社の国会議員が、「行かされる」立場の皆さんの声を聞いたことがあったでしょうか。派遣された自衛隊員が国連の指揮に従うのか、日本の独自の判断で行動するのか、また武器の使用は誰が権限を持つのか等々、基本的で重要な問題について一切明確な説明はありませんでした。そうです。この法案を提出した政府や、これを成立させようとしている国会議員たちは、憲法をないがしろにしているだけでなく、自衛隊員の生命さえ無責任にもてあそんでいるのです。

隊員の皆さん。テレビニュースで、ここ第4施設団がPKO派遣の候補として報道されていることを御存じでしょう。皆さんは自衛隊に入隊したとき、自分たちがカンボジアに派遣されるなどと想像しておられたでしょうか。マスコミの報道では多くの自衛隊員・家族の方が、「命令であれば戦地への派遣もやむをえない」と答えているようですが、大きな間違いです。皆さんは「軍人」である前に、日本国の国民です。憲法と自からの良心に従って、堂々と「派兵」を拒否できるのです。腐り果てた政治家たちが党利党略で決めた法律のために、大切な命を危険にさらすことを皆さんの家族も望んではいないはずですよ。

私たちは今日、「PKO法案」に反対してデモを行っています。隊内で反対の声をあげることができない皆さんの分も、抗議の声をあげたいと思っていますが、「当事者」である自衛隊の方々が反対に立ち上がれば、断固支持したいと思えます。民意を無視して作られた法律で「国際貢献」などできるはずはありません。自衛隊員の皆さんが勇気をもって、私たちとともに「PKO法案」を潰すために行動を起こされることを心から訴えます。

1992年6月13日

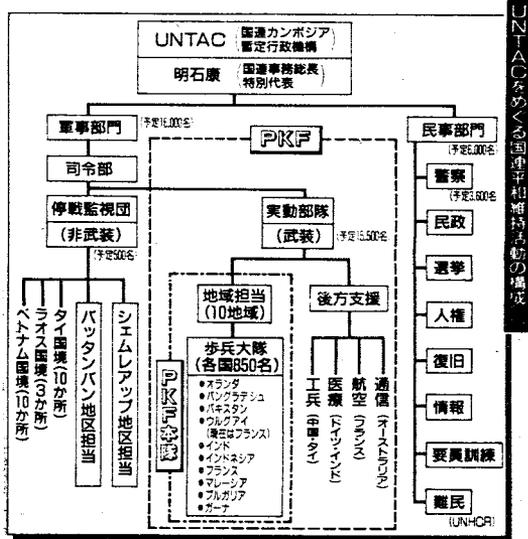
「PKO法案に反対する平和行動実行委員会」

(連絡先 0774-21-3242 [原水禁宇治久世会議])

陸上自衛隊大久保基地司令殿  
第45普通科連隊隊員の皆様  
第4施設団隊員の皆様

は陸上自衛隊施設団とよばれる  
 (全部で全国に5施設団)。派遣されるのはこの施設団の下にある1個施設群(約670名)丸ごとである。半年程度のローテーションで各施設団から選ばれる。これに給水・給食・衛生・通信・航空(ヘリ)の各部隊(施設団とは別)をつけ加えて「自己完結能力」を持たせる。この単位が自衛隊PKO部隊の主力になる。

これら部隊の訓練・研修に3~4カ月はかかるため、現地での行動は雨期明けの十月末と見られている。



### いきなり「三軍統合運用」

PKO部隊の主力は陸軍だが、施設団などの器材を輸送するのは海自の輸送艦、航空輸送は空自の輸送機(整地滑走路がないため)を使う。自衛隊念願の「三軍統合運用」が実践(実戦)できるわけだ。自衛隊の「三軍」の使いみちは下表のようになる。

	主な仕事	装備・器材	人員	備考
陸自	普通科等	輸送トラック/多用途ヘリコプターHU-1B/H/衛星通信機	編成により異なるが200人程度か	場合によっては地雷処理任務も
陸自	施設団	道路/飛行場/港湾等の整備 架橋	ブルドーザー 架橋器材	一個施設群(最大670人) (註2)
海上自衛隊	資器材輸送/艦艇を本国との通信基地	みうら型輸送艦/護衛艦/補給艦	不定	法律では海上保安庁も輸送業務
航空自衛隊	不整地への人員等の輸送	C-130H輸送機	不定	
その他	将校レベルの停戦監視団7、8名。(註2)			

(註1) 「週刊ポスト」92年6月19日号から。なお最初の地図も同誌から。

(註2) 6月17日明石代表の講演による。上表の他の部分の記述は、防衛庁の先遣隊の「先遣」として5月23日から29日までカンボジアを訪問した志方元陸将の報告に主としてよった(「朝雲」6月11/18日号)。

【ANALYSIS】(6月14日の集会でまた「反戦ドタバタ会議」のピラの一部に追加・訂正を加えたものです)

## カンボジアで自衛隊は何をするのか？



政治的配慮から、

PKO法成立以前に

はPKOに参加する自衛隊の「任務」については極めて漠然とした情報しか流されてこなかった。法案成立後の、UNTAC明石代表の日本での講演(6月17日)や防衛庁筋の情報によって、自衛隊参加部隊の種類等はほぼ明らかになった。今後の確かな自衛隊派遣阻止運動を組織するためには、この概要を正確につかんでおく必要がある。

### 意味のないPKF参加「凍結」

自・公・民三党が参議院で加えたいいわゆるPKF(平和維持軍)活動(法案第三条二項イからへに規定の“軍事的”活動)の「凍結」によって、自衛隊の活動は「後方支援」に限定され、武器使用のケースはほとんど生じないと説明されているが、誤りである。次ページのUNTAC構成図(註1)を見れば分かるように、実は「後方支援」(“原語”はlogistic support=兵站支援を日本流に“意識”したもの)もPKFに分類されているのである。

実際自衛隊が最も期待されているのは架橋(旧橋の修復)の任務だが、地雷が多く仕掛けられているのはまさしく、橋の兩岸の部分であるから、「後方支援」の任務遂行中に地雷に“遭遇”するのは避けがたい。結局「凍結」された地雷の処理任務(法律では「放棄された武器の処分」にあたる)もやっけてしまい、ナシ崩しが進んでゆくだろう。

### 工兵部隊(施設団)の参加を要請

先に述べた講演で明石代表は、自衛隊に対して工兵部隊700人から400人派遣を要請した。工兵部隊は、道路の補修・建設、架橋の作業などを行う。工兵部隊は日本で

## PKO法案の廃案を求め、

### 呉自衛隊のリムパックへの参加中止を要請する

自衛隊とその家族の皆さん！

今、国会ではPKO法案が強引に作られようとしています。皆さんはこの法ができた後、どんな事態が起きると思いますか？ 直接的には陸上自衛隊が対象になるかも知れません。しかし、PKO法はそれだけではすみません。自衛隊が海外で作戦行動をとれるという法律が初めてできるのです。掃海艇の時は一時的なものでしたが、今後は国連の平和維持活動という名があれば、いつでも自衛隊が出ていけることになります。

これにより自衛隊は「水際で守る」という専守防衛の建前を放り出し、少なくとも停戦後なら世界のどこでも作戦行動をとれることになってしまいます。PKO法事態の直接の当事者は皆さんです。いちばん困るのも他ならぬ自衛官とその家族の皆さんです。

皆さんは、他国への進駐のために入隊したわけではないでしょう！その皆さんのあづかり知らぬ国会で、特権を持った議員たちが法律を作ろうとしているのです。ご家族ともども不安と不満を持っておられると思います。皆さんは、もつとその生の声を出すべきです。自衛官といえども市民的自由と基本的人権を持っているのです。

「やまゆき」、「まつゆき」の乗組員の皆さん！ リムパックへの参加についてどのように思っていますか？ ご存じのようにリムパックは西側軍事同盟の集団的な軍事演習です。憲法でも集団的な自衛権の行使はしないという日本の考え方からいってあってはならないことです。しかも、その前提にはソ連という仮想敵がありました。

皆さんは、自衛隊の歴史をよくご存じでしょう。日本の再軍備は朝鮮戦争という米ソの冷戦を契機になし崩し的に進められたのです。その冷戦が崩壊した今自衛隊はそもそもの存在意義を失いました。「冷戦の産物」である自衛隊は一旦解散すべきです。それこそがアジアなど各国に対する〈国際的な貢献〉になります。必要なことは海外派兵への道を作ることはありません、むしろ自衛隊をどのようになくしていくかを具体的に打ち出していくことです。皆さんの安全をはかるためにもPKO法に反対し、自衛隊の海外派遣の動きをとめましょう！

1992年6月4日

「PKO法を廃案に！リムパック92反対！海上デモ」自衛官へのアピール  
ピースリンク広島・呉・岩国